

「小さな鉄人」奮闘

県トライアスロン協会の第1回ジュニアトライアスロンチャレンジ（北國新聞社後援）は11日、健民海浜公園で行われ、石川・福井の児童生徒25人が水泳、ランニング、自転車、白熱のレースを展開した。水泳は8月で営業が終了した健民海浜プールを活用し、参加者は園内の特設コースを走りながら、競技の魅力に触れた。

大会は競技普及を目的に初めて企画され、小学低学年、同高学年、中学の3部門で開催された。健民海浜プールでの水泳（1周50〜90分）、公園内のランニング（50分）と自転車（80分）の各コースで「小さな鉄人」が最長7・19分で競った。

健民海浜公園管理事務所によると、通常7〜8月の営業期間外でプールの使用は2度目という。志賀町富来中3年の川村亮太さんは

「普段は遊ぶ場所での競技は新鮮で楽しかった」と話した。

7月に栃木県で行われた全国大会で優勝した星稜高3年の定塚利心選手も「県トライアスロン協会所属もい」と話した。

補助員として大会に参加し、子どもたちのレースを見守った。県協会の冨木隆夫会長は「子どもたちにトライアスロンを知ってもらい、機会を増やしていきたい」と話した。

県トライアスロン協 初の小中学生向け大会
営業終了の健民プール活用



営業を終えたプールで泳ぐ参加者—健民海浜プール

泳ぎ、こぎ、走り切る

金沢で小中学生 トライアスロン

小中学生向けのトライアスロン大会「ジュニアトライアスロンチャレンジ」（北陸中日新聞後援）が11日、金沢市普正寺町の健民海浜公園で開かれた。石川、福井の両県から集まった計二十五人の参加者が、水泳、自転車、ランニングの順に三種目に挑んだ。

小中学生の頃からトライアスロンを体験してもらおうと、将来有望な選手を育成しようと、石川県トライアスロン協会が初めて企画。タイムは競わず、完走した選手全員に完走証を授与した。

スタッフによる実況が響いた会場では、小学一〜三年、同四〜六年、中学生でそれぞれ距離が異なる三レースを実施。選手たちが笑顔でゴールテープを切るたび、会場には温かい拍手が送られた。

（柴田一樹）

バイクコースを回る選手—金沢市普正寺町の健民海浜公園で

